資料 2-2-5

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

【適正利用・エコツーリズム検討会議の仕組み及び WG の運営】

本 WG は、地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同で平成 22 年（2010 年）から「**適正利用エコツーリズム検討会議**」として開催しています。検討会議は、「**保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場**」です。そして**知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき**、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進しています。その基本原則は次のとおりです。

〇遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上

〇世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供

〇持続可能な地域社会と経済の構築

検討会議では、**戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリング**を毎回議題にしています。なお、長期モニタリング及び既存ルールの見直しなど、WG として検討すべき課題の増加に伴い、専門家同士の意見交換が必要と判断し、平成 30 年度（2018 年度）から適正利用・エコツーリズム WG を単独開催しています。

＜コロナウイルス感染拡大を受けた知床観光の状況について＞

令和元年度（2019 年度）２月末の冬季流氷シーズンより徐々に影響が出はじめ、緊急事態宣言が発令された４月から５月にかけては約３週間にわたり道の駅等の観光施設が休館となりました。当該時期の宿泊者数はおよそ２割に満たないと見られ、観光関連サービス業（観光船、ガイド、土産など）においても営業が自粛されました。

夏シーズン前には各町とも感染防止策を徹底したうえで観光客の受け入れを行う方針を固めましたが、宿泊業、観光関連サービス業が特に厳しく、次いで飲食サービス業が厳しい状況です。７月末時点の集計では宿泊施設・観光施設において利用者が前年比の半数を下回っています。利用者は比較的道内客が多い傾向にあり（交通量調査・聞き取りによる）、全体として観光消費が抑制的と推測されます。

各町とも補助金や商品券発行等による経済支援や、現状把握に向けた各種調査等を実施しています。今後の感染予防や観光客の受け入れについては、新たな生活様式への変革を前提として、国や道、各業界の方針に基づいて行っていくという共通認識に立っています。

１．知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案が承認され、検討がなされた２件の状況は以下のとおりです。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区昆布ツアー	羅臼町観光協会	● 令和元年度（2019 年度）第１回検討会議において、検討会議で合意した期間令和３年度（2021 年度）まで継続することを協会として明言した。 (参考：半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーとして、平成 28 年（2016 年）の検討会議で５年間の試行を合意)。 ● 令和元年度（2019 年度）は計 20 人（ツアー催行３回）が参加。ツアー参加者に対するヒアリングの結果、羅臼昆布の産業文化や自然との共生の歴史について伝承するため、ツアーを継続するべきとの意見があった。 ● ツアーの経営的持続可能性について検討が必要である。 ● 令和２年度（2020 年度）のツアーについては、コロナ感染拡大防止のため催行しない。
厳冬期の知床五湖エコツアー事業	斜里町観光協会	● 冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで、静寂性を保って冬期の知床五湖をまわるツアーを実施している。検討会議での議論では、ゲートによる一般車両の進入禁止措置は今後も継続可能とされた。 ● 令和元年度（2019 年度）は令和２年（2020 年）３月 22 日までの実施を予定していたが、少ない積雪による植生への負荷が懸念されたため、３月 12 日で催行を終了した。参加者は計 1917 名（前年度比 68.9%）であった。 ● コロナ感染拡大の状況をみて、令和２年度（2020 年度）のツアー実施の可否や内容を秋の検討会議で協議する。

２．個別地域における取り組み状況と課題

〇知床五湖における利用調整地区制度の運用

高架木道と地上遊歩道での運用を維持し、令和２年度（2020 年度）からは地上遊歩道において自由利用期（10 月 21 日～閉園）を廃止、植生保護期期間を延長（８月１日～11 月８日）

して、全ての利用者に知床五湖利用のためのレクチャーを実施できる運用制度へと変更しました。

＜コロナウイルス感染拡大防止策＞

地上遊歩道立ち入りのためのレクチャーについて、原則としてレクチャールーム１部屋25名（定員は50名）とし、さらに人数に応じて屋外に特設ブースを設けることで、感染拡大防止と許容人数確保の両立を目指し運用を進めています。

○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

知床五湖ゲート～カムイワッカ区間において、８月９日～15日の７日間でマイカー規制を実施し、シャトルバス乗車人数は4,439人（前年比81%）でした。また、従来の「アクセス規制」「単なる移動手段」とは異なる、移動そのものを魅力あるツアーコンテンツとするモデル事業として、ホロベツ（知床自然センター）～カムイワッカ区間において、車両規制を伴う誘客イベント（知床オータムフェス）を実施しました。10月２日～４日の３日間のイベント期間中は、シャトルバス内でのガイド解説をはじめとして、道の駅ミニマルシェや自然センター発着の岩尾別孵化場見学ツアーなど周辺施設でも各種イベントを実施し、シャトルバスは約3,000名の利用があった他、乗り換え拠点である道の駅や自然センターの来館者数も大幅に増加しました。

＜コロナウイルス感染拡大防止策＞

間隔をあけての着席、定期的な換気及び消毒、マスク着用といった、バス・タクシー業界における感染防止対策ガイドライン（第１版）に基づいた実施としました。

○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会において、海鳥WEEK等の各種イベントを縮小して実施しました。現在、知床ウトロ海のハンドブック等の売上収入を海鳥及びその生息環境の保全活動と普及啓発活動に充てており、今後羅臼側との連携を見据えた改訂作業を進める予定です。

＜コロナウイルス感染拡大防止策＞

海鳥WEEK（7月23日～7月31日）について、知床世界遺産センターでのケイマフリ展示と船から海鳥を観察するイベントに限定して実施しました。イベントについては、町内児童を主な対象として開催しました（参加者30名程度）。宿泊施設での海鳥トーク及び都道府県をまたぐイベント出店は自粛しました。

３．主な検討事項や今後の予定

○検討会議

・知床エコツーリズム戦略の運用をはじめとする知床世界自然遺産地域の適正な利用及び

エコツーリズムの推進を図るため、引き続き年２回実施予定です。

・ヒグマ対策連絡会議や野生動物観光促進事業、知床国立公園利用のあり方に関する会議については、必要に応じて情報提供を継続し、知床のエコツーリズムの動向を共有します。

・コロナウイルス感染拡大による影響や防止策等について検討会議で共有し、今後の知床におけるエコツーリズムのあり方を議論する予定です。

〇ＷＧ

・長期モニタリング等について科学的助言を得るため、引き続き年２回実施予定です。

・「No.19 適正利用に向けた管理と取組」「No.20 適正な利用・エコツーリズムの推進」及び評価項目「Ⅶレクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること」について、適切に実施・評価されるよう科学的助言を行います。

・北海道運輸支局をはじめとする地域外の資源利用者とのコミュニケーションを図り、北海道観光局等を中心に、民間関係者も含めた知床の適正な利用について検討します。

上記 2 会議とも、ネット接続による遠隔参加を可能にする試行を進めます。